

問 小水力発電事業をもっと積極的に

答 環境に優しく、観光にも重要



加藤亮輔議員

【白馬村総合戦略について】

問 人口減少に対応し、住み良い環境の確保と活力ある白馬村を維持することを目的に31年までの5カ年計画で「白馬村総合戦略」が策定された。戦略には、4つの基本目標と23の施策があるが、28年度予算で取り組む新事業名と、その予算額は。

村長 北アルプス連携自立圏事業506万8千円。創業支援事業補助金300万円。白馬高校支援事業の新規分1100万円。

問 グリーンシーズン観光客を113万人から120

万人へ7万人増やす事業として、大雪渓まで電気自動車を取り入れる。梅池自然園から大雪渓間のトレッキングコースを復活。山岳景観を活かしたサイクリングコースの整備等が事業にあがっているが、どこまで進めるのか。

村長 白馬大雪渓までの道路整備などを検討しているが、正式の道路ではないため、国の信託管理事務所長に話をしていて、交通安全の規格をクリアするのが難しい。サイクリングのニーズも多いので、観光局の方で予算建てしている。

問 総合戦略終了の平成31年までにできるのか。

村長 長年の念願のグリーンシーズンの観光の目玉にする。

問 小水力発電は年間1000万KWの目標値だが、去年整備した平川小水力発電所は146万6千KWで、すでに達成しているのではないか。28年度の新たな建設計画は。

農政課長 施設が稼働したが年度中で、大雪渓まで電気自動車を取り入れる。梅池自然園から大雪渓間のトレッキングコースを復活。山岳景観を活かしたサイクリングコースの整備等が事業にあがっているが、どこまで進めるのか。

問 小水力については、25年度に切久保、塩島、深空、犬川、滝川、飯森の構想もある。公共施設の水道光熱費総額は7491万円、これを補うだけの発電は十分可能だ。原発を使わず、自然エネルギーで公共施設の電気は賄っている状況になれば、内外で白馬のブランド力を高める事につながる。もっと積極的に進めるべきだ。

村長 小水力発電は環境に優しく、観光にとっても重要な位置づけである。

問 下水道受益者負担金問題の判決は、「加入分担金の賦課徴収は村に財産上の損失を伴わない行為だから住民訴訟の対象にはならない」と却下したが、下水道問題全体を考えた

【下水道問題について】

場合、村に損害がなかったという見解か。

村長 結果として多額の未収金を生じ、損失があるということは事実である。

問 27年度上下水道課運営方針によれば、3月に改正案を出し、28年度から施行することだが、本定例会に条例・規則の改正案が提案されていない。いつ提案するのか。

村長 その様に進めていきたい。

村長 今議会に追加議案として、加入分担金制度の廃止、受益者負担金条例の一部改正、同時に排水区域の見直し等を提出するつもりである。

問 村民も注目しているので、改正条例を十分に検討し、住民にも知らせ、二度と紛らわしい条例を作らないように進めべきでは。



平川小水力発電所建屋(現在故障中)